

「阪神高速 未来へのチャレンジプロジェクト」 第3回助成・事業実施報告書

1. 基本事項

団 体 名	NPO 法人サードプレイス		
事 業 名 称	障害児家庭の育児支援	助成額	42.7万円
申請事業の概要	当会には、脳疾患を持つ子どもの親が約 200 組以上在籍しており、情報交換を行っています。そのお母さん、お父さん方にピアサポーターとして協力してもらい、障害児、特に脳疾患を持つお子さんのサポート体制を整備する。		
申請事業の目的	子供の健全なる育成のためには、母親の精神的な安定が欠かせません。ただでさえ負担な子供の育児に加え、さらに子供の何かしらの育てにくさがあると、さらに母親の負担は増加します。その負担緩和のために、ピアサポート活動を通し、母親、家庭に安定を与え、障害児、配慮が必要な子供が健やかに生活できる環境を整備します。		
関連する SDGs 目標	   		

2. 助成事業の実績・成果等について

・ピアサポ講座を開催

第一回目 参加者：10名

4月7日 13時～15時「ピアサポートの基礎」

第二回目 参加者：10名

4月21日 13時～15時「ピアサポートの実践」



静岡英和学院大学の梓川一教授による「ピアサポ講座」を2回に渡って開催いたしました。

https://www.shizuoka-eiwa.ac.jp/dev_stage/department/subject/community-welfare/teacher-06.html

参加者・10名

・定期的に交流会を開催し、ピアサポート体制を整備することが可能となった。（毎月1回、もしくは2回開催、計18回開催）対応ピアサポーター、毎回2～3人体制

主な交流会の内容

夫婦における育児分担について

リハビリ(SDR、リハビリなど)

SDRの施術に関して、どのように受けるのか、どこで受けるのか、メリット・デメリットとは。それぞれのリハビリの特性、地域によって(ドクターによって)見解は様々、その取捨選択は親が迫られる。

新1年生、1学期終えてどう？

支援学校はどう？

放デイは使ってる？

夏休みはどう過ごす？

来年度の就学相談スタートしてるよ！

NICU で入院中にもっと母親のケアを
小さく生まれた赤ちゃんのピアサポート
など

・365日 24時間体制の LINE ワークス稼働

会員向けの情報交換ツールを使い、24時間の情報交換をとれるようにしております。リハビリや就学に関して、また、障害告知のときの葛藤共有など、会員限定のオンラインコミュニティだからこぞ話せる“ピアサポート”の場を提供させることができました。

・病院との連携

大阪市立総合病院、ポバース記念病院、神戸こども病院との連携をとることが可能に。

直接の紹介はなかったですが、チラシを見て、連絡を取ってこられる当事者の方は数名いらっしゃいました。

また行政にもチラシ配布を行いました（中央区役所、中央区障害者基幹相談センター、社会福祉協議会など、その他神戸市、京都市など）

・学会、イベント出展

病院連携が難しいので、直接ドクターたちとの連携をとるために、学会にブース出展いたしました。

- ・日本周産期新生児医学学会学術集会（7月）
- ・重度心身障害児学会（10月）
- ・関西キッズ機器展（11月）



その結果、ドクターがサードプレイスに参画してくださったり、ドクターや大学関係者から研究の共同を進めていくことになりました（障害児家庭のケア問題など）

・チラシ、SNS アカウント制作

Third Place

1000人に一人は知的障害のある子どもが生まれます
障がいのある子どもも健常者家庭でも育ちたい。当事者同士が助け合おう。

脳性まひ児の家族会サードプレイスでは
ピアサポートを推進しています

“peer”は仲間。“support”は支援。“ピアサポート”とは、当事者同士が互いの経験を活かし、サポートし合う助け合いです。

活動内容 - Contents

個別相談
公式LINEによる無料相談
ZOOMによるオンライン相談

グループ交流
ナイトプレイス（交流会）の開催
インスタライブでの交流

様々な情報発信
Instagram
ホームページ
ブログなど

イベントでの相談会
etc...

頼もしい児童基金
きょうだい見守り
治療やリハビリ
親のメンタルケア
産科医療補償制度

幅広く様々な相談をお受けしております。

制作：「未来（あす）へのチャレンジプロジェクト」の協力を得て制作いたしました。

NPO法人 サードプレイス
hello@thirdplace-npo.com

ホームページ 公式LINE Instagram

NPO法人 サードプレイス

サードプレイスの
ピアサポート活動
オンライン交流会
「ナイトプレス」開催します。

5月17日（金）
21時半～22時半

Third Place

3. 課題分析や今後の発展性

・病院との連携の厳しさ

個人情報の観点から、中々病院との連携が進まず、顔見知りの病院でしか、難しい環境でした。また、営業のマンパワーが足りず、そちらの対応をどうすべきかも課題のひとつとして浮彫になりました。

→今後の改善策としては、営業にかける人材を増やし、また、サードプレイスの認知度を上げ、引き続き粘り強く病院と連携していくしか方法はないのかと考えております。平行して、病院や行政に頼るのではなく、今は SNS の時代ですので、SNS で直接、当事者の方々と連携を進めていければと考えております。

オフラインの交流会を開催するため、常設の場所を確保した。

オンラインの限界もありますので、2025 年度より、当会で放課後等デイサービスを常設予定であり、そちらの場所で障害ある子どもの保護者支援にも積極的に力を入れていく予定です。



4. 代表者又は担当者からのひとこと

この度は、ご支援、誠にありがとうございました。病院、行政との連携の厳しさがありましたが、当事者支援という形では十分サポート体制が整備できたのではないかと感じております。

病院との連携は、かなり難しく、個人的につながりがある病院でしか、難しい環境でしたのでそのあたりの課題が大きく、こちらは引き続き、検討していく必要があると考えております。

一方、SNS や学会出展などに力を入れたことで、SNS では多くの親御さんと交流を持つことができ、また、学会出展によって、医療・福祉関係者の方々と接点を持つことが可能となり、支援者として、サードプレイスに参画して下さる方も増加いたしました。